

学校運営協議会の評価（学校関係者評価）

児童・生徒及び保護者が行った学校・授業評価をもとに、学校による自己評価について、第2回学校運営協議会（12月9日）と後日配布したアンケート結果より、以下のように評価しました。

1 学びづくりへの評価について

- ・昨年と比べて「大変よい」「よい」と感じる回答が90%以上となっており、保護者も小グループによる学習など対話を軸とした学びに理解が深まり、前年比16%とアップしたことは、一人ひとりと丁寧に向き合い、自分の意見を述べたり、人の意見を聞けたりする児童生徒が育っている証であり、取り組みの成果として高く評価したい。
- ・パソコンや教科書だけでは学べない体験を授業に取り入れているのは良いと思う。
- ・一学期の反省の上に立って、指導法の改善をすることにより、評価が向上していて一定の成果があったと思われる。
- ・分からないことを分からないままにしないためには、振り返りが重要だと思う。
- ・タブレットの活用により、友の意見が一度に見られることは、自己の学びの追究に役立っていると思う。
- ・タブレットの使用については弊害が生じる可能性もあるので、使用目的や使用頻度をはっきりさせていくとともに、エビデンスを拾っていく必要があると思う。
- ・ICT利用のメリットやデメリットについて、子供自身が自ら調べることでよりよい活用の仕方を見つけていく部分もあるのではないかな。

2 体づくりへの評価について

- ・元気アップ運動の効果があり、児童生徒の意欲的な取り組みが向上していて、今後とも継続していくことを期待する。
- ・運動量の減少、生活習慣病の増加などが社会問題となっている中で、学校だけで子供の体力を考えても難しいので、家庭とも問題を共有していくのが望ましい。親子で目標を立てて（毎朝ラジオ体操、歩く、走る、投げるなど）成果の発表をしたり表彰されたりすることがあっても良いのではないかな。
- ・体づくりの基本は歩くことだと思う。豊かな自然の中で歩くことは、体力のみならず、精神的にも落ち着きをもたらし、子供にとって良いことだと思う。
- ・『体を動かすことの楽しさ』を標語に、体を動かす体力づくりから健康づくりへと結びつけていけたらと思う。

3 集団づくりへの評価について

- ・「グループのリーダーは最上学年がする」という概念から脱却し、7学年がリーダーを務めるという発想が良い効果をもたらしている。「学校に行くのが楽しみ」という子供が増えれば良いと思う。
- ・異年齢の交流が幅広くできる美麻の環境で、人間関係の構築を学べることは、他校に比べて大変有利であると思う。
- ・春には、個々の動きが目立っていたが、梨の木祭では集団になじんで活動できていたのが感動した。
- ・リーダーやフォロワー育成のために大町市のリーダー研修に生徒たちが参加するのも一案かと思う。

美麻学校運営協議会長
北沢 伊絃男